



▲10月22日(火)、事務引き継ぎ式で八坂前市長と固く握手を交わす永松市長

10月22日に八坂前市長が任期満了に伴い退任し、同日付けで堀田副市長・八戸教育長も退任しました。翌23日に永松悟新市長が第2代の市長に就任し、初登庁しました。

35年間県行政に携わってきた経験を活かし、杵築市の新たなリーダーとして、「市民が主役」の永松市政がスタートしました。



▲10月23日(水)、杵築市役所に初登庁する永松市長

永松市政が誕生

先の市長選挙におきまして無投票で当選させていただきました。10月23日に市長に就任いたしました。

これもひとえに市民の皆様温かいご支援の賜であり、身に余る光栄であります。無投票で市政の舵取りを任せられた責任の重さを厳粛に受け止め、市勢発展のために全身全霊を捧げる覚悟です。

市政に取り組むにあたっては、①市民の声を大切にす。清廉で開かれた市政②地域バランスのとれた活力あるまちづくり③誰もが安心・安全に暮らせる地域づくりの3点を基本方針とし、市民の皆様への知恵と力をいただきながら、市民中心の市政を実現してまいります。

私は市政の具体的な課題を知ろうと、4月から市内の全ての行政区を回りました。その中で農林水産業や商店街などで働く多くの方々に直接お話を伺うことができました。

が、その共通の深刻な悩みは、収益の厳しさや先行きの不安による「後継者不足」でした。その結果、我が杵築市も「過疎化、高齢化、少子化に歯止めがかからない状況」に陥っていることを実感しました。

このような中、5月末に国東半島・宇佐地域(杵築市を含む6市町村)が国連の食糧農業機関(FAO)によって「世界農業遺産」に認定されました。

世界で11カ国25地域しかない「世界農業遺産」という世界ブランドを手に入れたことは大きな誇りであり、一次産業はもとより、観光面や地域振興面でも、飛躍のためのまさに千載一遇のチャンスです。

このため、私は市長就任を機に、県や認定地域の市町村、農林水産や観光団体等と一致協力して、働く場の確保や収入安定のための戦略を立て、若者が杵築市の将来に希望を持てるようにすることで、「後継者の育成」を図り、人口減少

にストップをかけたかと思えていますが、また、高齢になっても障がいがあっても住み慣れた地域で安心して生活できるよう、一人ひとりの状況に応じて保健・医療・介護・福祉サービスなどが緊密に連携し、切れ目無く提供できる体制づくりを進めます。さらに山香病院の再建に全力で取り組むとともに、生活習慣病の予防による「健康寿命」の延伸、教育や子育て環境の整備、災害時要援護者の支援にも、これまでの行政経験を活かして真剣に取り組みまいります。

「健康で活力のある安心の杵築市」をみんなで創ってまいります。

よろしくお願いたしました。

「健康で活力のある 安心の杵築市」を



第2代市長

ながまつ さとる
永松 悟 (59歳)

Profile

- 昭和28年11月 杵築市に生まれる
- 昭和47年 3月 大分県立杵築高等学校を卒業
- 昭和51年 3月 同志社大学 法学部卒業
- 昭和53年10月 大分県(佐伯福祉事務所)に入庁
障害福祉課長、医務課長、
こども・女性相談支援センター所長、
福祉保健部長などを務める
- 平成25年 3月 県を退職